

『家と女性の社会史』



京都橘女子大学女性歴史文化研究所編
日本エディタースクール出版部
1998年3月30日発行 A5版 3,200円(税別)

女性歴史文化研究所第1プロジェクト「歴史における家族と女性—日本と世界」では、1993年度から97年度までの5年間の共同研究の結果、『家と女性の社会史』を出版しました。

目次(タイトルと執筆者)

第Ⅰ部 日本史(前近代)

1. 女性による初期仏教の受容について(門脇禎二/本学学長・文化財学科教授)
2. 『夜の寝覚』の母親観—美化される継母と作者説(鈴木紀子/国文学科教授)
3. 大原郷と大原女(田端泰子/歴史学科教授)
4. 中世の北野社と宮仕沙汰承仕家—京都橘女子大学所蔵 北野社宮仕沙汰承仕家文書の補任状から—(細川涼一/文化財学科教授)
5. 鹿子絞の女たち—近世後期京都周縁の下層女性(横田冬彦/歴史学科教授)

第Ⅱ部 日本史(近現代)

6. 水子と国家について—もう一つの女性史(後藤靖/歴史学科教授)
7. 帝国議会における婦選法案の推移(松尾尊●/歴史学科教授) ●は、「公」の下に「儿(ひとあし)」
8. 女子中等教育機会均等への道のり—私立女子青年学校の意味(大阪府北河内郡内の一企業の場合)(佐藤令子/歴史学科教授)

第Ⅲ部 ヨーロッパ史

9. 中世ポーロニヤの家の記録—法学者オドフレードの家—(山辺規子/奈良女子大学助教授)
10. 中世末期ケルン市における女性の経済活動—絹織物女親方組合を中心として(瀬原義生/歴史学科教授)

11. フロラ・トリスタンと夫アンドレ・シャザルの物語ーアンドレ・シャザルの獄中の詩をもとに（杉村和子／元
京都橘女子大学教授）